

特定外来生物

カミツキガメ

爬虫綱 カメ目 カミツキガメ科 *Chelydra serpentina*

生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

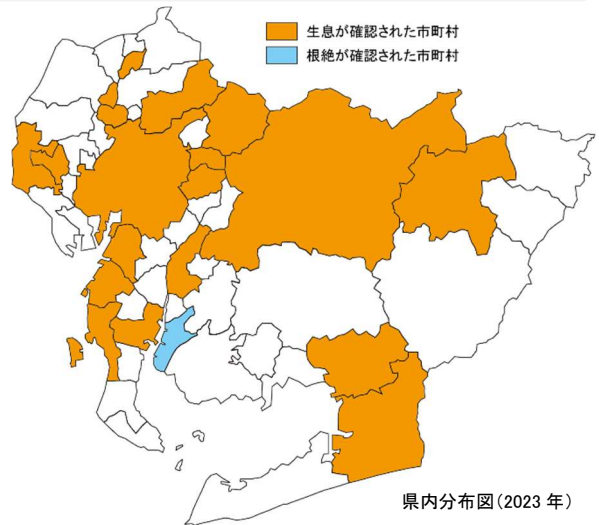
基礎情報

原産地

- ・カナダからエクアドルにかけてのアメリカ大陸。4 亜種(ホクベイカミツキガメ、フロリダカミツキガメ、チュウベイカミツキガメ、ナンベイカミツキガメ)に分けられている。
- ・日本で流通し、野外で見つかるのはほとんどがホクベイカミツキガメである。

現在の分布

- ・国内では、千葉県印旛沼付近および静岡県で繁殖が確認され定着している。北海道、沖縄を含む他の地域でもたびたび目撃されている。
- ・県内では 20 の市町村で捕獲事例があり、2006 年から 2023 年 8 月までの間に約 50 個体が捕獲されている。
- ・2016 年に庄内川水系で稚ガメが発見され、県内での野外繁殖が強く示唆された。

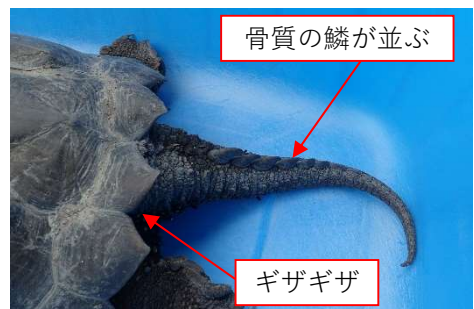
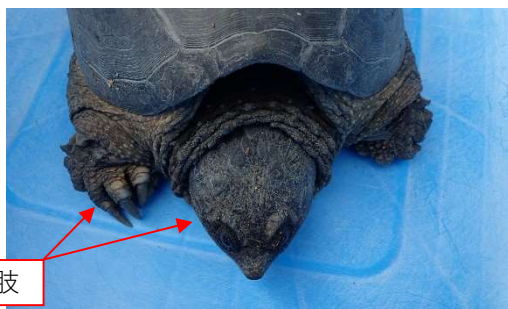
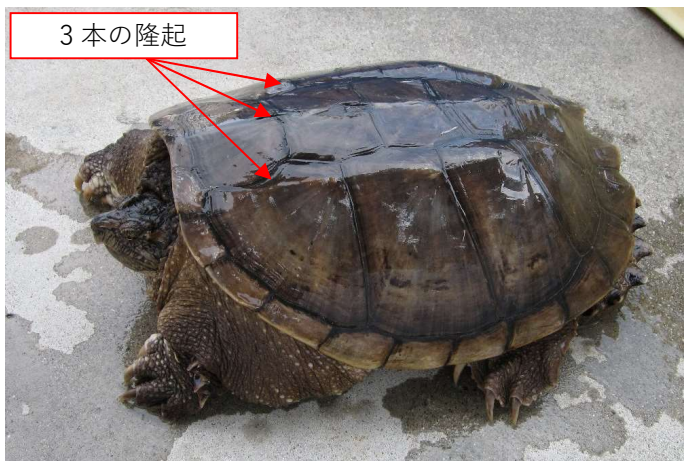


侵入の経緯

- ・2005 年の外来生物法施行以前はペット用に大量に流通しており、安価で販売されていた。飼育は容易だが大きく成長し攻撃的になるため、持て余された個体が野外に遺棄されたと考えられる。

形態

- ・基亜種ホクベイカミツキガメで甲長約 50cm、体重は 34kg に達する。
- ・甲羅に対して大きな頭と四肢を持つ。顎は頑強で四肢は太く、指先に爪がある。
- ・背中側の甲羅には 3 本のやや発達した隆起があり、後部はギザギザになる。
- ・腹側の甲羅は小さく、十字型。
- ・尾は長く、骨質の鱗が 1~3 列に並ぶ。



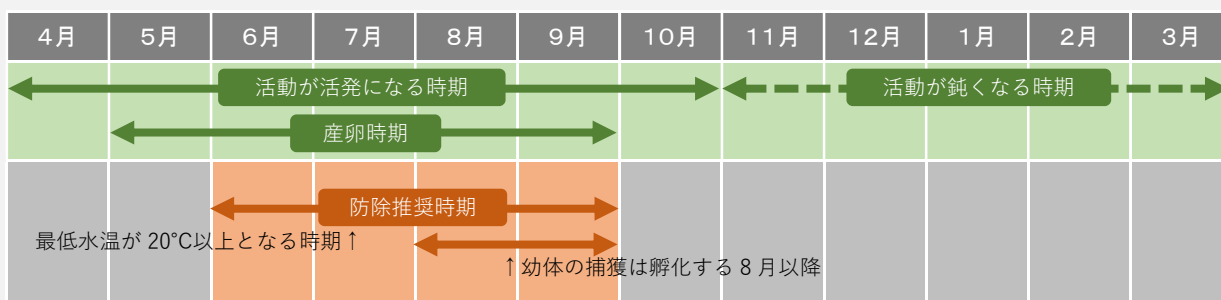
生息環境

- ・湖沼や流れの緩やかな河川・水路に生息し、溪流では見られない。
- ・泥の底質があり、水生植物や沈水木などがある環境を好む。

生態・ライフサイクル

- ・水生傾向が強く、生涯水辺に生息する。
- ・食性は雑食性であり、昆虫類、甲殻類、貝類、魚類や両生類のほか、鳥類や小型哺乳類の死体など動物質、水草などの植物質も食べる。幼体は肉食傾向が強い。
- ・夜行性で、早朝や夜間に岸や沈水物に沿って活動し餌を探す。
- ・産卵時期は5～9月で、6月がピーク。交尾は水中でなされる。メスは水辺周辺の陸地上がり、深さ10～13cmの巣穴を掘って直径23～33mmの丸い卵を産む。幼体は55～125日で孵化するが、孵化が翌年になることもある。卵の孵化時期は千葉県印旛沼では8月以降とされている。
- ・淡水産のカメとしては最も産卵数の多い種の一つで、繁殖力が強い。1回に通常20～30個、多い時には100個以上の卵を産むことがある。
- ・分布域は、カナダ南部から南米まで南北に広がるため、日本全土に定着可能であると考えられる。
- ・きわめて長寿で、寿命が80年に及ぶという説がある。

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

- ・大型のカメのため、成長すると在来種との区別は容易。大型でやや類似する種として、ワニガメがいる。

ワニガメ（外来種）



①発達した突起

②側面はギザギザ

- ①背中側の甲羅に発達した突起がある。
- ②背中側の甲羅の側面はギザギザになる。

大型の淡水性カメで、甲長最大80cm、体重最大113kgに達する。カミツキガメ同様、ペット用に大量に輸入され、野外に遺棄された個体が捕獲されている（県内では2009年以降10個体が捕獲されている）。

ワニガメは外来生物法に基づく「特定外来生物」には指定されていないが、動物愛護管理法に基づく「特定動物」に指定されており、愛玩目的等で飼うことが禁止されている。また研究目的等で許可を得て飼う場合でも、逃げ出さないよう一定の基準を満たした施設で飼う必要がある。

特定外来生物や特定動物の飼養に際しては個体識別が義務付けられており、左後肢の付け根付近の皮下にマイクロチップが埋め込まれている可能性がある。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

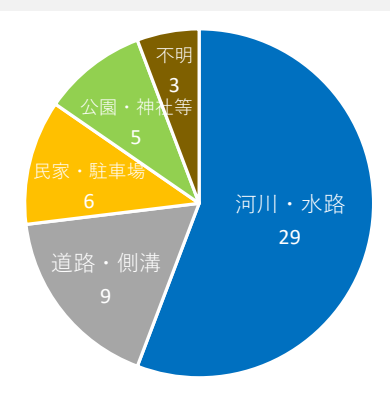
哺乳類
鳥類
は虫類
両生類
魚類
昆虫類
甲殻類
クモ類
貝類
植物

影響・被害

- ・大型に成長し、さまざまな生物を捕食するため、定着地域では魚類や両生類等に大きな影響を及ぼすことが考えられる。
- ・捕えられた時の咬みつき、引っ掻き等の被害が想定される。陸に上げられた際には攻撃的になり、大型個体に咬まれた場合には大怪我の恐れもある。
- ・コイやフナ等の淡水魚を対象とした漁具に掛かり、漁具の破壊、漁獲物を食害する懸念がある。
- ・寿命が長く、野外に放出されると、1個体のみで繁殖しない場合であっても影響が長期間に渡るおそれがある。

生息・被害の確認方法

- ・普段は水中で生活していて、人の目につくことは稀である。このため、一度侵入すると個体数がかなり増加するまで気づかない場合がある。
- ・道路、側溝、民家、駐車場、公園、神社など、水辺から離れた人の生活圏に近い場所でも捕獲されている。住民からの目撃情報の収集など、早期発見できる体制を整え、現地調査等を実施し分布状況を把握することが重要と考えられる。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・情報収集の効率を高めるためには、研究者や漁業関係者、地域住民との連携も必要となる。
- ・地域の住民や農業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



県内での場所別捕獲個体数
(2006~2023年)

防除方法

- ・飼育個体が野外に放されないよう周知を徹底する。
- ・住民が野外で発見した場合、怪我をするおそれがあるため、近づいたり、無理に捕獲したりしないよう注意する。
- ・野外に定着してしまった場合は、ワナなどを使って継続的に捕獲する。捕獲が難しい場合は、必要に応じて、地域住民等への注意喚起を検討する。

推奨時期

- ・ワナによる捕獲は、最低水温が 20℃以上になる盛夏に実施すると捕獲効率が高い(水温が低い冬はほとんど活動しなくなる)。幼体の捕獲は卵から孵化する 8 月以降が適している。
- ・産卵期に捕獲すると、卵を産む成体メスを捕獲できるため、効率的に減らすことができる。

具体的な防除方法

- ・水辺で捕獲する場合は、かごワナ等により捕獲するとよい。在来のカメも捕獲(混獲)されるため注意が必要である。
- ・捕獲した個体は殺処理する。殺処理の方法として、冷凍庫での冷凍処理(マイナス 20 度以下で 48 時間以上保管する)が多く選択されている。
- ・殺処理後の最終処理は、一般廃棄物として廃棄(各自治体の基準に従う)する。



側溝で発見された個体

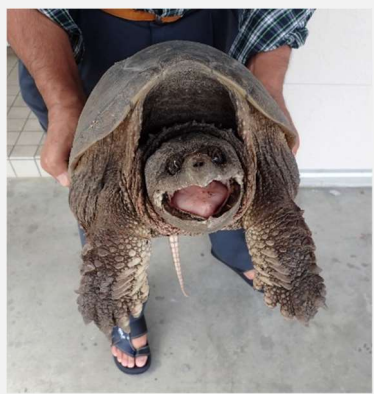
【ワナの種類】

| 種類 | かごワナ | 小型のかごワナ |
|----------|---|--|
| 形状 |  |  |
| 概要 | エサで誘引。設置・カメの回収は容易。成体と亜成体の捕獲に用いる。 | エサで誘引。設置・カメの回収は容易。幼体(甲長 5cm 程度)の捕獲に用いる。 |
| 設置場所 | ため池・池沼・流れのゆるい河川 | 水田の水路など(流れのゆるい水路) |
| 設置期間 | 前日に設置し、翌日確認する。 | 前日に設置し、翌日確認する。 |
| 設置・回収の方法 | 流れがゆるく、水際に植物が生えているような場所に設置する。流れのある場所では入口を下流方向に向けて設置する。エサは魚のアラなど臭いの強いものを用いる。 | 水田等の水路に入口を下流方向に向けて設置する。水路が広い場合、複数のワナを並べて水路を完全に塞ぐように設置すると効率的。エサは釣り用のねりエサなどを用いる。 |
| 費用 | 5,000～15,000 円程度 受注生産の場合が多い。 | 1,000～2,000 円程度 釣具屋でも購入可能。 |
| 留意事項 | カメが溺れないよう、完全に水没させないように設置する。空のペットボトル等を浮きの代わりにかごワナ内に入れてもよい。 | カメが溺れないよう、完全に水没させないように設置する。カニかごなど大きさの異なるワナを組み合わせることで様々な水路幅に対応可。 |

哺乳類
鳥類
は虫類
両生類
魚類
昆虫類
甲殻類
クモ類
貝類
植物

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意
- ・水から揚げられた際のカミツキガメは非常に興奮して攻撃的になり、首を素早く伸ばして噛みつくことがあるため、カメを保持する場合は厚手の保護手袋(革手袋等)を着用し、甲羅の後ろ(後肢の上あたり)を両手でしっかりと持つ。また、作業者は、カミツキガメの肢の爪や伸ばした首などに十分注意を払い、カミツキガメの頭を他の作業者に向けないように注意する。



咬む力の強い口

必要な法令上の手続き等

- ・愛知県漁業調整規則に基づく特別採捕許可(漁法や漁具により必要となる場合がある)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 爬虫類 > カミツキガメ(国立研究開発法人 国立環境研究所) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30010.html>
- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 爬虫類 > ワニガメ(国立研究開発法人 国立環境研究所) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30310.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > カミツキガメ(環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-ha-01.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集(環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 爬虫類(環境省 自然環境局) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/3hp_hachurui.pdf
- ・カミツキガメ防除の手引き(環境省 自然環境局,2014)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021(愛知県,2021) p.58 ホクベイカミツキガメ(矢部隆)